



【学校教育目標】 夢をえがき 計画を立て 行動する 児童の育成

家庭と学校の絆

月桂樹



令和7年度5月号
戸田市立新曽小学校
Tel 048-442-2774

インクルーシブ教育の推進

校長 筒井 陽子

若葉の鮮やかな季節の中、花壇には去年の卒業生が植えた色とりどりの花々が子供たちの登下校を見守ってくれているようです。

新学期が始まり3週間が経ち、子供たちも新しい学級に慣れ、落ち着いて学習に取り組んでいます。また、保護者の皆様には、御多用のところ、年度当初の懇談会に御参加いただきありがとうございました。

さて、本校は、ことばの教室（難聴言語指導教室）2教室、たけのこ学級（特別支援学級）3学級に加え、今年度からフレンドリールーム（発達・情緒障害通級指導教室）1教室が設置されました。これにより、教育的支援が必要な児童への学びの場が広がりました。

去る4月23日（水）の校内研修では、一般社団法人 UNIVA 理事 戸田市インクルーシブ教育戦略官 博士（障害科学） 野口晃菜様、筑波大学附属大塚特別支援学校 教諭 博士（障害科学） 高津梓様を招いて、『インクルーシブ教育とは？ 多様な子どもたちが「ともに学ぶ」場づくり～交流及び共同学習について～』というテーマで児童理解研修を行いました。これからの社会（少子高齢化、働き手の多様化）においては、多様な他者と協働する経験が重要であること、社会的障壁を段階的になくしていくことなどについてお話いただきました。社会的障壁とは、建造構造や法律の不備だけでなく、非障害者を中心に形成された社会の支配的価値観や慣習行動なども含む幅広い概念と言われています。例として、「障害者ってかわいそう」と一方的に思ってしまうような偏見、無知、無関心などの観念の障壁（バイアス）も入るそうです。これらをなくしていくためにも、一人一人に応じた学習の個性化を通して児童が自分のよさや可能性を認識することや異なる考え方が組み合わせよりよい学びを生み出す協働的な学習を通して、あらゆる他者を価値のある存在として尊重していくことがとても大切であることを再認識しました。その後、グループに分かれて配慮が必要な児童への支援や声かけ、学級全員に対するユニバーサルな支援についての協議を行いました。

今回の研修を生かし、今後も、子供たち一人一人に寄り添ったインクルーシブ教育の推進を目指してまいります。



発達・情緒障害通級指導教室「フレンドリールーム」について

フレンドリールームでは、通常の学級の学習や生活におおむね参加でき、一部、特別な教育的支援を必要とするお子さんを対象としています。

指導内容は、主に特別支援学校の学習指導要領における「自立活動」を参考にして、個に応じた内容の指導を行います。（学習の遅れを取り戻したり、予習・復習など学習の補充をしたりする場ではありません。）週に1～2回程度、気持ちを理解したり感情をコントロールする学習を行ったり、状況に応じた行動や言葉の使い方などを学習したりします。

フレンドリールームについてのご質問やご相談がある場合には、担任または学校へお知らせください。